

大阪の コロナ禍3年を 検証する

— 医療・保健所・介護・保育・障がいの現場から —

新型コロナ禍から3年、大阪ではコロナ死者数が全国最多となり、深刻な被害をもたらしました。コロナ対策が後手に回った結果、保健所の機能はパンクし、医療機関は対応に追われ、介護・障がい現場では陽性者の留め置きが常態化するなど、各現場は過酷な状況に見舞われました。

新型コロナが猛威をふるうなか、それぞれの現場では何が起きていたのか。その時、大阪府政や自治体の対応は——。第一線でコロナ禍に立ち向かった現場の目線から、コロナ禍の行政の対応を検証します。第8波を見据え、必要な対策を問題提起します。

2022年11月6日(日)13:00~16:30

現地会場

定員50人:大阪府保険医協同組合会館(大阪市浪速区幸町1-2-34)

WEB会場

定員300人:Zoomウェビナーで現地会場を中継

シンポジスト

医療/河原林正敏氏(耳原総合病院院長)

保健所/長池敦子氏(保健師・大阪府職労)

介護/日下部雅喜氏(ケアマネジャー・大阪社保協介護保険対策委員長)

保育/乾みや子氏(社会福祉法人どんぐり福祉会専務理事)

障がい/皿海みつる氏(社会福祉法人コスモス理事)

コーディネーター/井上美佐氏(医師・大阪府保険医協会副理事長)

現地参加のお申し込み

大阪社会保障推進協議会までTEL(06-6354-8662)またはFAX(06-6357-0846)でお申し込みください。

お名前

電話

WEB参加のお申し込み

QRコードから登録、または「大阪社保協」で検索しHPから登録してください。

